



竹原 亞生

増加する負債をどうするか

町 事業費の削減に努める

問 町が借金なしで運営する指標である。プライマリーバランスは、平成26年5・5億円、27年1・6億円と連続で大幅赤字となっている。どうするのか。

町長 小中学校、保育園の改修、建設などに費用を要した。今年度は、黒字化対策として、町債の発行を抑制している。

問 一般会計の負債は、平成26年以降増え続け、更に、平成32年には131億円まで増える計画をたてている。過去最大の負債を減らす考えは。

企画財政課長 実際の事業実施に当たり、事業費の削減に努め、負債が増えないよう、検討する。

公共施設維持の財源不足は

町 町民と痛みを共有し、見直す

問 公共施設等の維持財源は、毎年24・5億円不足する。栃木県他市町に比べ住民一人当たり、財政規模当たりの財源不足が最悪となっているが、どうするのか。

企画財政課長 財源不足となる金額を起債として試算すると、平成32年度末の町債残高は、196億円になる。

問 今年度の公共施設等の維持管理更新を、公共施設等総合管理計画の方針に基づいて行うのか。

総務課長 総合管理計画と整合性を図り、見直し等必要があるものは、再検討を行う。

問 公共施設等の維持管理更新に要する財源不足を織り込む。

町長 本町は、財政的に大変厳しい状況になっているのは事実だ。町民の皆様にも痛みを共有していただき、公共施設の再編など新たな視点での見直しが必要だ。新事業についても見直すべきところは見直す。

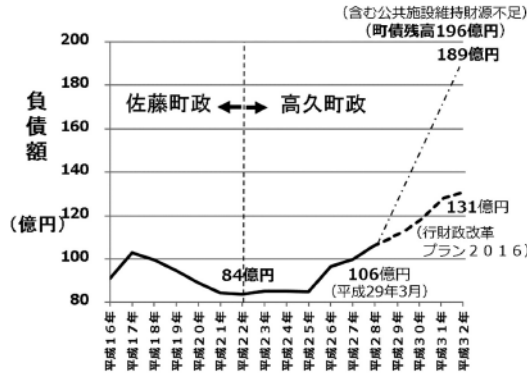
※公共施設等総合管理計画
公共施設等の全体を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うこと

公共施設維持の財源不足額比較 (栃木県25市町)



公共施設維持財源の不足額比較 (栃木 25 市町)

負債[借金(町債)-貯金(基金)]推移



町の負債の推移・見直し